

村田源理事長退任・名誉理事長就任記念講演会

## 日本の森林を構想する

南北に連なる日本列島は、数百万年を超える長期の気候変動の繰り返しの下でも、植物たちが常に暮らし続け、世代交代を可能にする場を提供し続けてきました。また、方々から噴き上がる火山がもたらした火山岩の基盤と、数千万年から数億年の歴史をもつ堆積岩の基盤が複雑に織り成す山岳地形は、そこに適したさまざまな自然植生とともに日本の風土を特徴づけています。たび重なる地震でさえ、岩盤に複雑な亀裂を生み地下水の流れを変えることによって、植物の生きる場に影響を与え、植物たちがつくる日本固有の森の姿や草地の姿と結びついているといえます。

しかしながら、このようなわが国の自然は、この半世紀で大きくその姿を変えてきました。近世、中世の日本では人々の暮らしは定期的、循環的に樹木を利用し続けることによって里山を生み出す一方で、木地師たちがたまたま天然木を伐り出し、ときに狩り場となる以外は、水源としてあるいは風（おろし）の山として畏敬の地として触れることを慎んできた奥山がありました。

人々の手によって生み出された里山の自然と長い歴史を体現する天然の森を抱える奥山の自然は、とくに1950年代以降、わが国の経済の変化の中で急激に様相を変えていきました。スギとヒノキに代表されるような経済性が高いとされたわずかな種類の樹木だけをどこにでもかつ大量に植えて単純な森をつくりました。また一方、パルプ材採取のために大面積皆伐されたところや薪炭林として利用されてきたところは、その後、多くが放置され続けてきました。

植えることによって生み出された人工林と放置し続けられてきた森がどちらも危機的な状況にあることが認識されるようになったのは1990年代に入ってからでした…。

このたび、この半世紀以上にわたり、わが国の自然を観察し、考え、提言を続けることによって、多くの植物学者を指導してこられた村田源先生の森林再生支援センター理事長退任・名誉理事長就任を記念して、わが国の森林植生、とくに針葉樹林の位置づけについて語っていただく機会を設けました。

多くの方々にご出席を賜り、わが国の森林のこれからのあり方を再考する契機としていただければ幸甚です。

2011年7月24日(日) 13:30-17:00(受付13:00~)

京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホールIII

講演 13:30—15:00 ※参加費無料・事前申込み不要

「日本の針葉樹林の位置づけ」 村田 源（森林再生支援センター理事長）

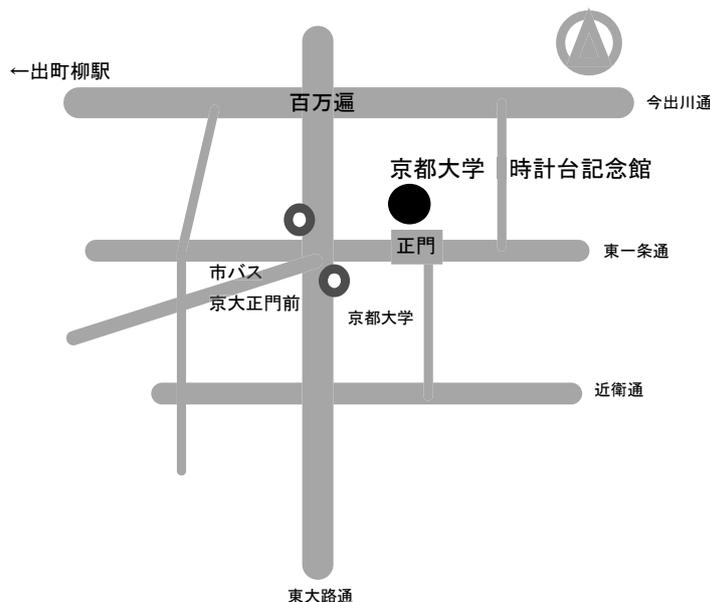
「森林植生と樹木の生活型」 藤田 昇（総合地球環境学研究所）

「針葉樹林の現状（弥山・大台ヶ原の調査から）」 松井 淳（奈良教育大学）

交流会 15:20—17:00

※講演会の後、同じ会場で交流会を開催します（講演者への質問等もこの場をご利用ください）。交流会にご参加いただける方は、7月17日（月）までに、はがき、FAX、E-mailにて申込みをお願いします。参加費（2,000円くらい、軽食・飲み物代）は当日、受付にてお支払いください。

会場案内 京都市左京区吉田本町（京都大学本部構内正門正面）



市バス「京大正門前」または「百万遍」下車

JR/近鉄京都駅から 市バス 206・17系、阪急河原町駅から 市バス 201・31・17・3系、

地下鉄烏丸線烏丸今出川駅から 市バス 203・201系、地下鉄東西線東山駅から 市バス 206・201・31系

京阪出町柳駅から 徒歩 約20分

主催・問合せ先 特定非営利活動法人 森林再生支援センター（CRRN）

〒603-8145 京都市北区小山堀池町29 シティハイツ上村106号

TEL/FAX:075-432-0026

mail:info@crrn.net URL:http://www.crrn.net